

パレスチナで写真を撮っています、菅梓です。

お時間を頂きありがとうございます。

ご来場の皆さんはガザのために来てくださった方々だと思います。今日はガザの話と西岸地区の話も少しだけ伝えさせてください。最初にお伝えしたいことはこれは戦争でも内戦でも紛争でもない、軍事占領でありアパルトヘイトであり虐殺がそこで起きているということです。歴史的なことはネットですぐに調べられるので割愛して個人的な話をシェアしたいと思います。

私がパレスチナに通い出したのは2015年です。その時に会った東エルサレムの高齢の女性に、こう言われました。あなたが見たままを世界に発信して欲しい、誰かを攻撃するようなことを言う必要はない、ただ見たことをそのまま。そしたら私たちは孤独じゃないって思えるから。こんな状況で孤独で誰も見向きもしたら、自爆テロとかが生まれてしまう、だからパレスチナで見たことをそのまま思ったことを発信してくれたら、それを見たパレスチナ人は孤独じゃないって思えるから。そう言われました。10月7日のハマスの攻撃でパレスチナのことを知った人も多いと思います。10月7日は始まりではありません。75年間のイスラエルの日々の攻撃、虐殺、占領、そして国際社会の沈黙、これらの1つの結果が10月7日だったと思います。

2015年は既にガザ地区は封鎖された後でしたので私はガザ地区に入域したことはありませんがガザ地区に友達があります。今空爆下でどこも安全ではない中、逃げ回っています。電波が通じたときにはまだ生きてる、と連絡をくれます。逃げると言われてもどこにも安全なところはない、それでもまだ希望があると信じている、そうメッセージにはありました。5月30日カナダにいるガザ出身の友達、イスラームのお父さんがガザで亡くなりました。去年末は福岡に住むガザ出身のオサマさんのおばあさまも亡くなりました。安全のために個人情報には明かせないのですが、一人の友人はなんとかお金を集めてエジプトに逃げようとしていました。5月のことです。家族たちはなんとか逃げられたそうですが、この人はイスラエル兵にバンされて逃げることができませんでした。今ラファで家族と離れ離れになって一人で逃げています。次ご家族に会えるのはいつなのかもわかりません。ガザ地区の大きさは福岡市と同じくらいの大きさで今多くの人が避難して攻撃の対象となっているラファは博多区と同じくらいの大きさです。そこに160万人の人がいました。博多区に福岡市民が全員が逃げてきてそこを攻撃されているような人口密度なのです。ガザのアーティストたちは瓦礫の中で絵を描き、歌を歌い、生き残っている子どもたちを励ましています。スケーターたちは瓦礫の中でトリックを決めています。少しでも現実の悲惨さから子供たちの意識が違う世界に向

けられるようにしています、それは彼らが子どもの頃にも空爆を受け悲惨で辛い気持ちなることを知っているからです。

ガザ地区が空爆下にあり報道される中、ヨルダン川西岸地区は報道もされませんが、軍事侵攻が激しく毎日のように誰かのお葬式の連絡が届きます。去年の夏も私はジェニン難民キャンプで過ごしました。劇場で働いていました。わたしが住んでいた同じ建物に住むサディールという14歳の少女が家のバックヤードに立っていたところスパイパーに撃たれて亡くなりました。前日私と一緒にお喋りしていた普通の少女です。先月も学校帰りの小学生がスナイパーに撃たれて亡くなりました。そしてジャーナリスト、アーティスト、非武装でアート業界で働いている人たちも狙われます。わたしがいたのはジェニンキャンプのフリーダムシアターという劇場ですが、そのプロデューサーのムスタファは去年の12月、急に家にイスラエル軍が侵入してきて、家族の目の前で目隠しをされ後ろ手に縛られて連れ去られました。パレスチナでは成人男性の四人に一人は囚人となった経験があります。彼は現在、イスラエルの刑務所にいます。裁判も何もありません。半年の刑期と言われたのですが、まだ出てきていません。彼は劇場で仕事をしていただけです。

今もジェニンでは毎日のように空襲警報がなり軍事車両が威嚇し道路を破壊し、水のタンクに銃撃をしインフラを壊し歩いている人を殺します。動くものは何でも撃たれます。常に空にはドローンがあり監視されています。5月末もラマッラの市場、福岡で言えば柳橋のような繁華街に近い市場が攻撃され火をつけられました。アルハリールは200mごとにチェックポイントが設置されています。羊飼いが銃を持った入植者に襲われたりオリーブの木が斬られたり、非暴力の活動家でわたしの友達でもあるイッサアム口は毎日のように入植者とその護衛の兵士たちに嫌がらせを受けています。あらゆる場所がこう言った状況にあります。

10月7日以前、こういう経験があります。わたしは先ほどお話しした、フリーダムシアターのムスタファとアートディレクターのTobasiと3人でラマッラーに行きました。ジェニンからラマッラーまで車で1時間半程度です。ムスタファがわたしに「もし、何かあったら梓が車を運転してジェニンまで帰れ」そう言ったんです。パレスチナ人が国内を移動する、というのはとても危険を孕んでいます。西岸地区にはたくさん入植地が入り組んで建設されており、チェックポイントと呼ばれる検問所はポップアップでどこにでも簡易のものができ、いつでも車を止めチェックされハラスメントを受け、兵士の気分次第ではその場で連行されることも珍しくありません。仕事で移動する時でも遠回りをしないといけなかったり、分離壁ができてしまったり、新しい入植地ができて今まで通っていた幹線道路が

イスラエル人専用になってしまったりして使えなくなったりもします。それが占領下で暮らす暴力に晒された日常なのです。こういうこともありました。エルサレムに近い、カランディアチェックポイントである高齢の女性が歩いていました。その時、手にはスマホを握っていました。手にスマホを持って歩く、普通のことですよ？ここにいる全員に近い人たちが経験があると思います。彼女はテロリストだ言われと射殺されました。

わたしとムスタファ、そしてTobasiが出かけたのは確か6月20日のことだったと思います。仕事を終えて私たちがジェニンに戻る途中、狂信的入植者たちがパレスチナの村に火を放って家や車に放火していたんです。目の前は煙と赤い炎がどんどん広がっていきました。彼らの護衛をするイスラエル兵は村を焼き尽くそうと放火する入植者に制するどころか何も注意もしません。そんなところに遭遇してしまった私たちは逃げようとしてしました。入植者たちが大きな石を車に向かって投げつけてきました。私たちは大きな声で「ロー」と叫びました。ローはヘブライ語でノーの意味ですが、意味がありません。彼らは大きな銃を構えてきます。スピードをあげて前に進むと車が止まっていて、イスラエル兵に囲まれていました。私たちの車もイスラエル兵に銃を突きつけられました。私たちは運が良く、車が壊れただけで怪我はしませんでした。前の止まっていた車はフロントガラスも割れてもしかしたら怪我をしていたかもしれませぬ。私たちはただ家に帰りたくだけで武器も何も持っていません、こんな攻撃を受けこれはテロとは言われずセルフディフェンスと言われるのです。

冒頭に東エルサレムのパレスチナ人女性はわたしに見たことを発信して欲しい、と言ったこと、こういうことも理由じゃないか？と思うことがあります。それはイスラエルに住むパレスチナ人のことです。イスラエルの人口の約20%がイスラエル国籍を持つパレスチナ人です。彼らが今ガザの状況、西岸地区の状況、それを見てフリーパレスチナ、とかフリーガザとか言えるかと言うと、それは無理です。彼らは常に監視されています。SNSへ投稿するもの全てが逮捕の理由にもなります。それは何年も前に投稿したポエムであってもテロを助長したとか、煽動したとか言いがかりをつけられ逮捕されます。いいね！をすることもです。彼らが何も発信していなくてもガザの人たちパレスチナの人たちを見捨てたということではなく、彼らはじっと耐えています。自分の命を守るために。イスラエルのユダヤ教徒が停戦を訴えれば、反ユダヤ主義として逮捕されています。大学の教員が平和を求め逮捕されました。そして職を失いました。イスラエルの中でも平和寄りと言われているハアレツという新聞があります。検閲で文章が黒塗りにされ発行されています。現地の言論統制はここまできています。

こういったことも日常です。エルサレムにアクサモスクというところがあります。わたしも敷地には入れます。イスラム教の寺院なのでイスラム教徒の人がお祈りをしています。そこにイスラエルの右派の人や入植者が銃を担いだイスラエル兵を引き連れて入ってきます。土足で、そしてこの警備の人がここは神聖な場所なので土足は困ります、と注意すると袋叩きに合います。わたしの友達も腕を何箇所か骨折させられました。特にコロナで海外からのメディアや支援する人たちが入れない間に入植やこういった嫌がらせが激化していきました。このモスクへの嫌がらせはパレスチナのキリスト教徒の人も反対のための祈りをイスラム教徒と一緒に捧げていました。人の尊厳を踏みにじる行為に反対の声をあげるのに思想は関係ありません。これは宗教問題でもありません。

この国の民主主義は死に体ですが、かるうじてまだ生きてて、センサーシップもありますけど、今のところある程度自由に発言はできます。イスラエルに住むパレスチナ人やイスラエルに住む、平和を求める人たちの声を代弁して停戦、解放を求める大きな役割が私たちにはあります。

パレスチナの人たちが一番苦しいと思うことはもちろん空爆や爆撃は辛いですが、世界中から見放されたと感じることです。誰もこの状況に見向きもせず孤独を感じることで。遠い可哀想な場所と思うだけで終わらないでください、彼らは歌い踊り笑う、そんな普通の人たちです。SNSで悲惨な写真や映像を見て心を痛めてこられたからもういらっしやると思います、今が行動する時です。

パレスチナの人だけじゃなく、停戦と解放はイスラエルの人たちの安全にもつながります。

私たちは第三者でも部外者でもなく、ただフィジカルで距離が少し遠いだけで当事者の一人です。目撃者として停戦を求めつつける責任があります。目の前に空爆から逃げる場所もなく立ち尽くす人たちを見捨てられません。人には誰しも幸せに生きる権利があります。今目の前で殺される子供たちを見捨てることは自分たちの生きる権利を放棄することだと思います。停戦を求めること、パレスチナの解放を求めることはパレスチナ人のためだけのことではありません。自分たちの自由、権利のためでもあります。一緒に声をあげてください。ありがとうございました。